

会員の
ひろば

「ワインエキスパート」をご存知ですか。

松木 琢磨

【試験の概要】

(社)日本ソムリエ協会では、毎年1回、「ソムリエ」「ワインアドバイザー」「ワインエキスパート」という3種類の呼称認定試験を行っています。3資格とも難易度等はほぼ同等であり、「ソムリエ」は飲食業サービス等従事者、「ワインアドバイザー」は酒類製造・販売等従事者、「ワインエキスパート」はそれ以外の職業と、受験者の従事している職業により呼称が区分されています。私のように酒類を職業として扱わない者が受験できるのは、ワインエキスパートです。試験は1次と2次に分かれ、1次は8月末、2次は9月末に行われます。

1次試験は、筆記試験(約100問の選択式)であり、たとえばこのような問題が出されます。

- ・ 特級畑ボンヌ・マールが位置する2つの村は？
- ・ ラインガウ・リースリングのベーレンアウスレーゼの最低エクスレ度は？
- ・ クロタン・ド・シャヴィニョールに合うワインは？

など、世界のワインに関する知識とともに、ワイン以外の酒類・料理・チーズや公衆衛生に至るまで、ワインを取り巻く広範かつマニアックな知識が問われます。(この1次試験が難関で、私はこの1次通過に5年の歳月を費やしました！)

2次試験では、口頭試問とブラインドテイastingが行われます。ブラインドテイastingでは、ワインが数種類並べられ、その色・香り・味覚について適切な表現ができるかについて試されます。香りについては、品種に由来するもの・発酵・熟成それぞれの香りを嗅ぎ分けなくてはなりません。

【ワインは地域固有の産物】

フランスやイタリア、ドイツのワインのラベルに



合格証書



認定バッチ

は、何やら難しいことが書かれているようですが、実は地域名や自治体名、畑名という「地理的な表示」が基本であるということをご存知ですか。

かの有名なフランス・ブルゴーニュのワイン「ニュイ・サン・ジョルジュ」も「ジュヴレ・シャンベルタン」も「ピュリニー・モンラッシェ」も、実は、人口わずか数千人・数百人の小さな村々の名前なのです。このように、地域の名前を冠したワインが、世界中の名だたるレストランで、誇らしげにワインカーヴに並んでいる。地域にとっては、なんだかとても嬉しいことではないでしょうか。

近年、道内でも様々な地域で傑出した葡萄・ワインが生産されており、北海道産のワインが注目されはじめています。フランスやイタリアのように、我が北海道の各産地名も、広く世界に知れわたっていくことを期待しています。

松木 琢磨 (まつき たくま)

技術士(建設)/総合技術監理部門

株式会社ドーコン
総合計画部

